

2020 年度

授業大要〔シラバス〕

(第 3 学年)

松本歯科大学衛生学院

歯科衛生士学科

<目 次>

建学の理念	3
教育目標 等	4
履修基準表	5
年間予定表	6
時間割表	8

歯科予防処置論Ⅲ【全】	9
歯科保健指導論Ⅲ【全】	13
歯科診療補助論Ⅲ【全】	17
健康管理【前】	21
歯科衛生士特論【後】	22
臨地実習Ⅱ【前】	31

学則、諸規程関係	別冊
----------	----

建学の理念

佐久間象山 福沢諭吉両先生の学訓に従い

国手的精神に立脚し

教育と研究の有機的結合を強固にして大学の本質を常に究め

近代民主主義の本源的価値観と世界観を確立し

人間の尊厳を認識せしめつつ民主主義的人格を陶冶し

深遠な真理を追求しつつ科学思想昂揚の完璧を期するにある

過去より未来を通じての現代の世界史的位置を認識せしめ

偉大な人類の業績を讃えると共に

未来への方法と科学的展望を確立せしめる

教学一致の不断の研鑽と遠大な理想に基づき

輝ける高雅な環境の醸成につとめ

自治の尊厳を守り

芸術を尊び高度の情操を育成せしめる

創立者 矢崎 康

松本歯科大学衛生学院

◇設置目的（松本歯科大学衛生学院学則 第1条）

松本歯科大学衛生学院は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授するとともに、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

◇教育目標

本学院は、温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで創造力をもった総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。

◇ディプロマポリシー（卒業認定に関する方針）

1. 歯科衛生士として豊かな人間性と専門性を身につけ、社会に貢献できる
2. 歯科衛生士に必要な専門知識と技術を備え、口腔の健康を支援することができる
3. 歯科衛生士としてのコミュニケーション能力を有し、多職種との協働ができる
4. 歯科医療の進歩、社会構造の変化などに柔軟に対応し、自ら問題解決できる探求心を備えている

◇アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

1. 歯科衛生士として人々の健康と幸福に寄与したいという目的意識をもっていること
2. 医療人にふさわしい温かい人間性を備えていること
3. 豊かな感性と学問への情熱を有していること
4. 専門家としての知識と技術を学ぶために必要な基礎力を身につけていること

履修基準表

	教育内容	授業科目	授業方法	履修区分	単位数	時間数	履修年次及び授業時間数		
							1 年	2 年	3 年
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	口腔生命科学入門Ⅰ	講義	必修	2	30	30		
		口腔生命科学入門Ⅱ	講義	必修	2	30	30		
		英語コミュニケーション学	講義	必修	2	30	30		
		歯科英語	講義	必修	2	30		30	
		医療コミュニケーション	演習	必修	2	30	30		
		言語表現	講義	必修	2	30	30		
小 計					12	180	150	30	0
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	講義	必修	2	30	30		
		人体の構造と機能Ⅱ	講義	必修	2	30	30		
	歯・口腔の構造と機能	歯・口腔の構造と機能Ⅰ	講義	必修	4	60	60		
		歯・口腔の構造と機能Ⅱ	講義	必修	2	30	30		
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学	講義	必修	2	30	30		
		薬理学・歯科薬理学	講義	必修	2	30	30		
		微生物学・口腔微生物学	講義	必修	2	30	30		
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学Ⅰ	講義	必修	2	30	30		
		口腔衛生学Ⅱ	講義	必修	2	30	30		
		衛生学・公衆衛生学	講義	必修	2	30	30		
衛生行政・社会福祉		講義	必修	2	30		30		
小 計					24	360	330	30	0
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	講義	必修	2	30	30		
	臨床歯科医学	保存修復・歯内療法学	講義	必修	1	30		30	
		歯周療法学	講義	必修	1	30		30	
		歯科補綴学	講義	必修	1	30		30	
		口腔外科学	講義	必修	1	30		30	
		小児歯科学	講義	必修	1	30		30	
		歯科矯正学	講義	必修	1	30		30	
		歯科放射線・歯科麻酔学	講義	必修	1	30		30	
		障害者歯科学	講義	必修	1	30		30	
		高齢者歯科学	講義	必修	1	30		30	
		摂食・嚥下学	演習	必修	1	30		30	
	歯科予防処置論	歯科予防処置論Ⅰ	実習	必修	4	120	120		
		歯科予防処置論Ⅱ	実習	必修	3	90		90	
		歯科予防処置論Ⅲ	実習	必修	2	60			60
	歯科保健指導論	歯科保健指導論Ⅰ	演習	必修	2	60	60		
		歯科保健指導論Ⅱ	演習	必修	3	90		90	
		歯科保健指導論Ⅲ	演習	必修	2	60			60
		栄養学・栄養指導法	講義	必修	2	30	30		
	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	実習	必修	4	120	120		
		歯科診療補助論Ⅱ	実習	必修	3	90		90	
		歯科診療補助論Ⅲ	実習	必修	2	60			60
	臨地実習 (臨床実習を含む)	臨地実習Ⅰ	実習	必修	10	450		450	
		臨地実習Ⅱ	実習	必修	10	450			450
	歯科衛生士特論	歯科衛生士特論	講義	必修	8	240			240
小 計					67	2250	360	1020	870
選択必修分野		キャリアデザイン	演習	必修	2	30		30	
		医療事務（歯科）	講義	必修	4	70		70	
		健康管理	演習	必修	1	20			20
小 計					7	120	0	100	20
合 計					110	2910	840	1180	890

2020年度 年間予定表

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
1	水		1	金		1	月		1	水		1	土		1	火	
2	木		2	土		2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金		3	日	憲法記念日	3	水		3	金		3	月	夏季休業 ～8/14	3	木	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土		4	火		4	金	
5	日		5	火	こどもの日	5	金		5	日		5	水		5	土	
6	月		6	水	振替休日	6	土		6	月		6	木		6	日	
7	火		7	木	オリエンテーション 1年5/7～5/11	7	日		7	火		7	金		7	月	2年前期試験 (～9/16)
8	水		8	金	2、3年授業開始	8	月		8	水		8	土		8	火	
9	木		9	土		9	火		9	木		9	日		9	水	
10	金		10	日		10	水	1年病院見学	10	金		10	月	山の日	10	木	1年前期試験 (～9/23)
11	土		11	月		11	木		11	土		11	火		11	金	
12	日		12	火	1年授業開始	12	金		12	日		12	水		12	土	
13	月		13	水		13	土		13	月		13	木		13	日	
14	火		14	木		14	日		14	火		14	金		14	月	
15	水		15	金		15	月		15	水		15	土		15	火	
16	木		16	土		16	火		16	木		16	日		16	水	
17	金		17	日		17	水		17	金		17	月		17	木	2年前期追再試験・補習 (～9/25)
18	土		18	月		18	木		18	土	第2回一日体験入学	18	火		18	金	
19	日		19	火		19	金		19	日		19	水		19	土	
20	月		20	水		20	土		20	月	1年木曜日授業	20	木		20	日	
21	火		21	木	3年 医療事務セミナー	21	日		21	火	1年金曜日授業	21	金		21	月	敬老の日
22	水		22	金		22	月		22	水		22	土		22	火	秋分の日
23	木		23	土	第1回一日体験入学	23	火		23	木	海の日	23	日		23	水	
24	金		24	日		24	水		24	金	スポーツの日	24	月		24	木	1年前期追再試験(～9/30)
25	土		25	月		25	木		25	土		25	火		25	金	
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	
27	月		27	水		27	土		27	月		27	木		27	日	
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	2年登院試験(～10/5) 3年前期試験(～9/29)
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水		29	土		29	火	
30	木		30	土		30	火		30	木		30	日		30	水	
			31	日	3年 医療事務 技能審査				31	金		31	月				

2020年度 年間予定表

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
1	木	1年後期授業開始	1	日		1	火		1	金	元日	1	月		1	月	
2	金		2	月		2	水		2	土		2	火		2	火	
3	土		3	火	文化の日	3	木		3	日		3	水		3	水	
4	日		4	水		4	金		4	月		4	木	(卒業証書授与式)	4	木	
5	月		5	木		5	土		5	火		5	金		5	金	2年後期試験(～3/8)
6	火	戴帽式	6	金		6	日		6	水	3年後期試験Ⅱ(～1/8)	6	土		6	土	
7	水	2年臨地実習 オリエンテーション(～10/20)	7	土		7	月		7	木		7	日		7	日	
8	木		8	日		8	火		8	金		8	月		8	月	
9	金		9	月		9	水		9	土		9	火		9	火	2年後期追再試験 (～3/12)
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水		10	水	
11	日		11	水		11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	
12	月		12	木		12	土		12	火		12	金	1年後期試験(～2/25)	12	金	
13	火		13	金		13	日		13	水		13	土		13	土	
14	水		14	土		14	月	3年後期試験Ⅰ (～12/15)	14	木	ファウンダーズデイ	14	日		14	日	
15	木		15	日		15	火		15	金		15	月		15	月	
16	金		16	月		16	水		16	土		16	火		16	火	
17	土		17	火		17	木		17	日		17	水		17	水	
18	日		18	水		18	金		18	月	3年後期追再試験 (～1/20)	18	木		18	木	
19	月		19	木		19	土		19	火		19	金		19	金	
20	火		20	金		20	日		20	水		20	土		20	土	春分の日
21	水		21	土		21	月	1年冬季休業(～1/6) 3年冬季休業(～1/5)	21	木		21	日		21	日	
22	木		22	日		22	火		22	金		22	月		22	月	
23	金		23	月	勤労感謝の日	23	水	2年冬季休業(～1/6)	23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	
24	土		24	火		24	木		24	日		24	水		24	水	
25	日		25	水	1年月曜日授業	25	金		25	月		25	木		25	木	
26	月		26	木		26	土		26	火		26	金	1年後期追再試験・補 習(～3/12)	26	金	
27	火		27	金		27	日		27	水		27	土		27	土	
28	水		28	土		28	月		28	木		28	日		28	日	
29	木		29	日		29	火		29	金	創立記念日				29	月	
30	金		30	月		30	水		30	土					30	火	
31	土					31	木		31	日					31	水	

2020年度 第3学年時間割

技 能 事 務	技 能 事 務
------------------	------------------

科 目 名			担当教員		
歯科予防処置論Ⅲ			竹岡亜紀 〔授業補助〕島田陽子、三村杏奈、高山きよ江		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	前・後期	2	60	実習	○
授業の目的(GIO)		2 年次までに学んだ項目の総まとめとして、復習および模型実習・相互実習を行い、自身の履修状況を確認し臨床への応用力を高める。			
教科書		最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯周病学 第 2 版(医歯薬出版)			
成績評価		定期試験の結果および課題の提出状況と内容を評価する。出席状況と授業態度も評価に加味する。			
実務経験のある教員 及び実務経験職種		歯科衛生士：竹岡亜紀			
実務経験を踏まえた 授業の内容		歯科衛生士として病院勤務経験のある教員が、2 年次までに学んだ項目の総まとめとして、復習と模型実習・相互実習を行い、学生の臨床への応用力を高める授業を実施する。			
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	5/14	シャープニング 5	研磨実習③ (キュレット#5～#14)	1) シャープニングの準備ができる。 2) シャープニングを実施できる。 3) 後片付けができる(ストーンの保管含む)。	竹岡
2	5/21	シャープニング 6	研磨実習④ (キュレット#5～#14)	1) シャープニングの準備ができる。 2) シャープニングを実施できる。 3) 後片付けができる(ストーンの保管含む)。	竹岡
3	5/28	う蝕活動性試験 2	1. う蝕活動性試験の復習 2. 試験の手順 3. 試験の判定方法	1) う蝕活動性試験の目的・特徴を説明できる。 2) 試験の種類と検体を列挙できる。 3) 主要な試験の判定方法を説明できる。	竹岡
4	6/4	う蝕活動性試験 3・4	う蝕活動性試験 (サリバテスト) ・唾液量 ・緩衝能 ・SM/LB ・RD テスト®	1) う蝕活動性試験の手順を説明できる。 2) 試験の準備ができる。 3) 各試験を実施できる。 4) 結果を判定できる。	竹岡
5					
6	6/11	シャープニング 7	研磨実習⑤ (シッケル#5～7)	1) シャープニングの準備ができる。 2) シャープニングを実施できる。 3.) 後片付けができる(ストーンの保管含む)。	竹岡
7	6/18	鎌・鋭匙型 スケーラー マネキン(復習)1	スケーリング実習① (指定の順序で全顎スケーリング)	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 部位に適した運動を判断してスケーラーを操作できる。 4) 適切なミラー操作ができる。 5) 取り残しの確認ができる。	竹岡
8	6/25	鎌・鋭匙型 スケーラー マネキン(復習)2	スケーリング実習② (各自前回の続き)	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 部位に適した運動を判断してスケーラーを操作できる。 4) 適切なミラー操作ができる。 5) 取り残しの確認ができる。	竹岡

9	7/2	鎌・鋭匙型 スケーラー マネキン(復習)3	スケーリング実習③ (各自前回の続き)	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 部位に適した運動を判断してスケーラーを操作できる。 4) 適切なミラー操作ができる。 5) 取り残しの確認ができる。	竹岡
10	7/9	口腔内診査 相互実習(復習) 1	プロービング・その他①	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎のプロービングを実施できる。 4) プロービング値を正しく記録できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
11	7/16	口腔内診査 相互実習(復習) 2	プロービング・その他②	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎のプロービングを実施できる。 4) プロービング値を正しく記録できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
12	7/30	口腔内診査 相互実習(復習) 3	プロービング・その他③	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎のプロービングを実施できる。 4) プロービング値を正しく記録できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
13	9/3	超音波スケーラ ー 相互実習(復習) 1	超音波スケーリング①	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎の超音波スケーリングを実施できる。 4) 部位に適したバキューム操作ができる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
14	9/10	超音波スケーラ ー 相互実習(復習) 2	超音波スケーリング②	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎の超音波スケーリングを実施できる。 4) 部位に適したバキューム操作ができる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
15	9/17	超音波スケーラ ー 相互実習(復習) 3	超音波スケーリング③	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 全顎の超音波スケーリングを実施できる。 4) 部位に適したバキューム操作ができる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
16	10/1	復習・まとめ 1	第 3 学年前期試験の復習とまとめ	1) 修内容を整理し要点を理解できる。 2) 自身の課題を明確にできる。	竹岡
17	10/8	復習・まとめ 2	第 1 学年～第 3 学年前期までの復習とまとめ	1) 履修内容を整理し要点を理解できる。 2) 自身の課題を明確にできる。	竹岡

18	10/9	予防の概念	1. う蝕の予防レベル 2. 歯周疾患の予防レベル	1) 疾病予防の3段階を説明できる。 2) 疾病予防の5つの手段を説明できる。	竹岡
19	10/15	歯科衛生 アセスメント	1. 歯科衛生過程の構成要素 2. 対象者の情報収集 3. 情報の解釈と分析	1) 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2) 情報収集の目的と方法を説明できる。 3) 情報処理法を説明できる。	竹岡
20	10/16	口臭測定法	1. 口臭の原因・分類と対処法 2. 口臭の測定法 3. 口臭測定器による実習	1) 口臭の原因を列挙できる。 2) 口臭の分類別対処法を説明できる。 3) 口臭測定法を列挙できる。 4) 測定の準備をして実施できる。 5) 結果を判定できる。	竹岡
21	10/22	口腔内写真 1 (スケーリング 実習)	デジタルカメラ撮影①	1) 実習の手順を理解できる。 2) 撮影の要点を説明できる。 3) 口腔内写真撮影を実施できる。 4) 指定部位のスケーラー操作ができる。	竹岡
22	10/23	口腔内写真 2 (スケーリング 実習)	デジタルカメラ撮影②	1) 実習の手順を理解できる。 2) 撮影の要点を説明できる。 3) 口腔内写真撮影を実施できる。 4) 指定部位のスケーラー操作ができる。	竹岡
23	10/29	口腔内写真 3 (スケーリング 実習)	デジタルカメラ撮影③	1) 実習の手順を理解できる。 2) 撮影の要点を説明できる。 3) 口腔内写真撮影を実施できる。 4) 指定部位のスケーラー操作ができる。	竹岡
24	10/30	口腔内写真 4 (スケーリング 実習)	デジタルカメラ撮影④	1) 実習の手順を理解できる。 2) 撮影の要点を説明できる。 3) 口腔内写真撮影を実施できる。 4) 指定部位のスケーラー操作ができる。	竹岡
25	11/5	口腔の情報収集 相互実習 1	1. 口腔内診査① ・歯列不正 ・歯肉・粘膜の性状 ・沈着物・付着物 ・う蝕 ・修復物・補綴物 2. 染色・PCR 診査①	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 診査を実施して口腔内の状態を把握できる。 4) 歯垢染色を実施できる。 5) PCR の染色部位を判断できる。 6) PCR を正しく記録できる。 7) 患者の安全への配慮ができる。 8) 処置の後片付けができる。 9) 実習記録を作成できる。	竹岡
26	11/12	口腔の情報収集 相互実習 2	1. 口腔内診査② ・歯列不正 ・歯肉・粘膜の性状 ・沈着物・付着物 ・う蝕 ・修復物・補綴物 2. 染色・PCR 診査②	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 診査を実施して口腔内の状態を把握できる。 4) 歯垢染色を実施できる。 5) PCR の染色部位を判断できる。 6) PCR を正しく記録できる。 7) 患者の安全への配慮ができる。 8) 処置の後片付けができる。 9) 実習記録を作成できる。	竹岡
27	11/19	口腔の情報収集 相互実習 3	1. 口腔内診査③ ・歯列不正 ・歯肉・粘膜の性状 ・沈着物・付着物 ・う蝕 ・修復物・補綴物 2. 染色・PCR 診査③	1) 実習の手順を理解できる。 2) 使用器材を準備できる。 3) 診査を実施して口腔内の状態を把握できる。 4) 歯垢染色を実施できる。 5) PCR の染色部位を判断できる。 6) PCR を正しく記録できる。 7) 患者の安全への配慮ができる。 8) 処置の後片付けができる。 9) 実習記録を作成できる。	竹岡

28	11/26	PMTC 相互実習 1	PMTC①	1) PMTC の内容と目的を説明できる。 2) 実習の手順を理解できる。 3) 使用器材を準備できる。 4) 全顎の歯面清掃・研磨を実施できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
29	12/3	PMTC 相互実習 2	PMTC②	1) PMTC の内容と目的を説明できる。 2) 実習の手順を理解できる。 3) 使用器材を準備できる。 4) 全顎の歯面清掃・研磨を実施できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡
30	12/10	PMTC 相互実習 3	PMTC③	1) PMTC の内容と目的を説明できる。 2) 実習の手順を理解できる。 3) 使用器材を準備できる。 4) 全顎の歯面清掃・研磨を実施できる。 5) 患者の安全への配慮ができる。 6) 処置の後片付けができる。 7) 実習記録を作成できる。	竹岡

科 目 名			担当教員		
歯科保健指導論Ⅲ			島田陽子、三村杏奈、 〔授業補助〕竹岡亜紀、高山きよ江		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	前・後期	2	78	演習	○
授業の目的 (GIO)		これまで「歯科保健指導論」および専門分野で修得した知識・技能・態度をもとに歯科衛生過程を実践する。			
教科書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生士教育サブテキスト「歯科衛生過程 HAND BOOK」(クインテッセンス出版)			
成績評価		定期試験および課題の提出および結果を評価対象とする。 出席状況と授業態度・参加状況も評価に加味する。			
実務経験のある教員 及び実務経験職種		歯科衛生士：島田陽子、三村杏奈			
実務経験を踏まえた 授業の内容		歯科衛生士として実務経験のある教員が、これまで「歯科保健指導論」および専門分野で修得した知識・技能・態度をもとに歯科衛生過程を実践できる技術を習得させる。			
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	5/14	口腔機能向上 1	口腔機能向上プログラム	1. 口腔機能向上プログラムの実践例を概説できる。 2. 集団アプローチの方法を説明できる。 3. 「お口の体操」を実施できる。 4. 「お口の体操」の指導法を工夫できる。	島田
2	5/21	口腔機能向上 2	レクリエーション 1	1. 口腔機能向上のためのゲームプランを作成できる。	島田
3	5/28	口腔機能向上 3	レクリエーション 2	1. ゲームの実践法を工夫できる。 2. 対象に適した媒体を作製できる。	島田
4	6/11	歯科衛生過程 1	歯科衛生過程とは 歯科衛生理論 歯科衛生アセスメント①	1. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2. 歯科衛生過程の6つのプロセスを説明できる。 3. 歯科衛生理論の必要性を説明できる。 4. ヒューマンニーズ概念モデルについて説明できる。 5. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。 6. 主観的情報と客観的情報を分類できる。	島田
5	6/25	歯科衛生過程 2	歯科衛生アセスメント②	1. 情報の分類・整理の目的を説明できる。 2. 情報を分類・整理することができる。 3. 情報の解釈・分析の目的を説明できる。 4. 情報を解釈・分析することができる。	島田
6	7/2	歯科衛生過程 3	歯科衛生診断①	1. 歯科衛生診断について説明できる。 2. 情報を統合することができる。 3. 対象者の強みを判断できる。 4. 情報の不足を判断できる。	島田
7	7/9	歯科衛生過程 4	歯科衛生診断②	1. 歯科衛生診断文について説明できる。 2. 診断句を記述できる。 3. 歯科衛生診断の型を判断できる。 4. 原因句を記述できる。	島田

8	7/16	小学校での衛生教育	学齢期の衛生教育	1. 小学校での衛生教育の目的を説明できる。 2. 児童の口腔内の特徴を説明できる。 3. 学年別到達目標を説明できる。	島田
9	7/30	歯科衛生過程 5	歯科衛生診断③	1. 問題に優先順位をつけることができる。 2. 優先順位決定のための基準を説明することができる。 3. プロブレムリストを作成できる。	島田
10	8/20	歯科衛生過程 6	歯科衛生計画	1. 長期目標と短期目標について説明できる。 2. 目標を設定できる。 3. ケア計画・教育計画・観察計画について説明できる。 4. 歯科衛生計画を立案できる。	島田
11	8/27	歯科衛生過程 7	歯科衛生介入 歯科衛生評価	1. 歯科衛生介入について説明できる。 2. SOAP形式について説明できる。 3. 実施記録をSOAP形式で記述できる。 4. 歯科衛生評価の目的と意味を説明できる。 5. 目標達成度を判断できる。 6. 判定結果の要因分析と課題抽出ができる。	島田
12	9/3	リスク対応	カリエスリスクへの対応	1. カリエスリスク診断の意義を述べることができる。 2. カリエスリスクへの対応を説明できる。 3. カリエスレーダーチャートの活用法を説明できる。	島田
13	9/10	食品とう蝕誘発性	1. う蝕誘発性 2. 代用甘味料	1. 砂糖とう蝕発生の関係性を説明できる。 2. う蝕誘発性を示す指数を説明できる。 3. 清涼飲料水のショ糖含有量を算定できる。 4. 代用甘味料の特徴を説明できる。 5. キシリトールの効果を説明できる。 6. キシリトールの応用法を説明できる。	島田
14	9/17	小学校での衛生教育	指導案作成①	1. 口腔ケアの目的を説明できる。 2. 口腔ケアの技法を説明できる。 3. 児童の到達目標を設定できる。 4. 目標達成のための方策を討議できる。	島田
15	9/24	小学校での衛生教育	指導案作成②	1. 学年に応じた指導法を工夫できる。 2. 児童の理解度に配慮できる。 3. 正しい知識を伝えることができる。	島田
16	10/2	小学校での衛生教育	媒体作製～リハーサル	1. 指導案に沿った媒体を作製できる。 2. わかりやすい媒体を工夫できる。 3. 協同して作製できる。 4. 計画に沿って作業を行うことができる。	島田
17	10/5				
18	10/8				
19	10/15	小学校での衛生教育	ロールプレイ	1. 児童の反応を予測することができる。 2. 児童の視線になって確認することができる。 3. 所要時間を確認することができる。	島田

20	10/23	小学校での衛生教育	小学校 2 年生指導プラン発表会	1. 指導目標を明確にできる。 2. わかりやすい指導を工夫できる。 3. コミュニケーション法を工夫できる。 4. 他グループの指導プランを評価できる。	島田
21					
22	10/27	小学校での衛生教育	小学校歯科保健指導実習 1	10 月 27 日(火) 塩尻市立広丘小学校 2 年生 4 クラス 塩尻市立片丘小学校 2 年生 1 クラス 1. 児童とのコミュニケーションを工夫できる。 2. 児童の反応に注目することができる。 3. 臨機応変な対応ができる。 4. 養護教諭・担任教諭に配慮することができる。 5. 小学校 2 年生に対する実習を振り返り、評価できる。 6. 計画から実施までの問題点を評価できる。 7. アンケート結果を分析できる。 8. 次回の実習に向けての課題を明確にできる。 9. 改善策を討議することができる。	島田
23					
24	10/27	小学校での衛生教育	指導案	1. 学年に応じた指導法を工夫できる。 2. 児童の理解度に配慮できる。 3. 正しい知識を伝えることができる。	島田
25	11/5	小学校での衛生教育	媒体作製	1. 初回の実習の反省を活かして進めることができる。 2. 計画に沿って作業を行うことができる。	島田
26	11/12	健康教育 1	地域歯科保健活動の概要	1. 地域保健活動の特性を説明できる。 2. 地域歯科保健における行政体系を説明できる。 3. 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明できる。 4. 地域歯科保健における進め方(PDCAサイクル)を説明できる。 5. 地域歯科保健活動における歯科衛生士の役割を説明できる。	三村
27	11/19	健康教育 2	保健所 市町村保健センター	1. 施設、対象の特性を説明できる。 2. 関連法規を説明できる。 3. 保健所における歯科衛生教育での歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 市町村保健センターにおける歯科衛生士の役割を説明できる。 5. 歯科保健教育の方法を具体的に説明できる。	三村
28	11/20	小学校での衛生教育	小学校 5 年生指導プラン発表会	1. 指導目標を明確にできる。 2. わかりやすい指導を工夫できる。 3. コミュニケーション法を工夫できる。 4. 他グループの指導プランを評価できる。	島田
29					

30	11/25	小学校での衛生教育	小学校歯科保健指導実習 2	11月25日(水) 塩尻市立広丘小学校 5年生 3クラス 塩尻市立片丘小学校 5年生 1クラス 1. 児童とのコミュニケーションを工夫できる。 2. 児童の反応に注目することができる。 3. 臨機応変な対応ができる。 4. 養護教諭・担任教諭に配慮することができる。 5. 小学校 5年生に対する実習を振り返り、評価できる。 6. 計画から実施までの問題点を評価できる。 7. アンケート結果を分析できる。	島田
31					
32	11/26	健康教育 3	保育所 幼稚園	1. 施設、対象の特性を説明できる。 2. 関連法規を説明できる。 3. 保育所、幼稚園における歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 歯科保健教育の方法を具体的に説明できる。	三村
33	12/3	健康教育 4	学校 事業所	1. 施設、対象の特性を説明できる。 2. 関連法規を説明できる。 3. 学校における歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 事業所における歯科衛生士の役割を説明できる。 5. 歯科保健教育の方法を具体的に説明できる。	三村
34	12/10	健康教育 5	在宅(居宅) 施設	1. 施設、対象の特性を説明できる。 2. 関連法規を説明できる。 3. 在宅(居宅)、施設における歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 歯科保健教育の方法を具体的に説明できる。 5. 居宅療養管理指導について説明できる。	三村

科 目 名			担当教員		
歯科診療補助論Ⅲ			高山きよ江 亀山敦史、各務秀明、正村正仁、山上裕介、谷内秀寿 [授業補助]三村杏奈、島田陽子、竹岡亜紀		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	前・後期	2	60	実習	○
授業の目的 (GIO)	歯科診療補助および歯科衛生士の役割を再確認し、知識と技術を統合する。 また、歯科診療の高度化に伴い歯科衛生士として歯科診療補助業務を効果的に行うために、更に専門的な知識・技術を修得する。				
教科書	最新歯科衛生士教本:「歯科診療補助論 第2版」、「歯科材料」、「歯科機器」(医歯薬出版) チェアサイドのアシスタントワーク (医歯薬出版)				
成績評価	定期試験、授業態度、課題の提出、出席状況などから総合的に評価する。				
実務経験のある教員及び実務経験職種	歯科衛生士: 高山きよ江 歯科医師: 亀山敦史、各務秀明、正村正仁、山上裕介 歯科技工士: 谷内秀寿				
実務経験を踏まえた授業の内容	歯科衛生士として病院勤務経験のある教員が、歯科診療補助および歯科衛生士の役割を再確認させ、知識と技術を統合させる。また、歯科診療の高度化に伴い歯科衛生士として歯科診療補助業務を効果的に行うために、更に専門的な知識・技術を修得させる。 歯科医師として病院勤務経験のある教員が、歯科診療の高度化に伴い歯科衛生士として歯科診療補助業務を効果的に行うために、更に専門的な審美歯科・スポーツ歯科・口腔インプラント治療の知識・技術を修得させる。 歯科技工士として病院勤務経験のある教員が、歯科診療補助業務を効果的に行うために、歯科技工の知識を修得させる。				
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	5/14	高齢者歯科学 実習 1	食事介助(講義・実習)	身体障害や認知症により食事が困難となった患者に対し、食事介助を行う方法を理解する。	山上
2	5/28	高齢者歯科学 実習 2	移乗(講義・実習)	身体障害により移動が困難となった患者に対し、車イスと診察台の相互間移動を安全に行うために相互実習を通し熟練する。	山上
3		高齢者歯科学 実習 3	介助磨き(講義・実習)	身体障害や認知症により歯磨きが困難となった患者に対し、介助磨きの必要性、体位、磨き方を相互実習を通し熟練する。	山上
4		高齢者歯科学 実習 4	バイタルサインの評価(講義・実習)	バイタルサインの各項目と、マネキンを使用し、モニターの装着法を理解する。	山上
5	6/25	概形印象採得 1 (アルジネート)	1. 復習 2. 相互実習 * 口腔内での概形印象採得	1. 概形印象採得について知識の整理ができる。 2. 適切なトレーの選択と試適ができる。 3. 口腔内で印象採得ができる。 4. 印象体の評価ができる。 5. 実習を振り返り、反省・課題を挙げることができる。 6. 課題の解決策を検討できる。	高山
6	7/2	概形印象採得 2 (アルジネート)			高山
7	7/9	概形印象採得 3	相互実習 * 口腔内での概形印象採得	1. 前回までの概形印象採得の課題を改善できる。 2. 石膏注入時の注意点を説明できる。 3. 気泡混入の原因を説明できる。 4. 石膏模型撤去後、歯列状態が確認できる。	高山 谷内
8		石膏模型 1	石膏模型製作実習		

9	7/16	石膏模型 2	石膏模型の台付け・基底部の形成 石膏模型のトリミング	1. 石膏模型基底部、辺縁部に石膏を盛り付けることができる。 2. 咬合平面の設定、台付け・基底部の形成ができる。 3. 石膏模型のトリミングができる。	高山 谷内
10	7/30	石膏模型 3	1. 石膏模型の修整 2. 模型の管理・保管	1. 気泡の処理、余剰部分を削去することができる。 2. 模型の管理・保管方法を説明できる。	高山 谷内
11	8/20	バキューム テクニック1	1. 復習 2. 相互実習① 1) 口腔内洗浄 2) 上顎左側臼歯部 3) 下顎右側臼歯部 4) 各自の課題	1. バキュームテクニックについて知識の整理ができる。 2. 術者と協調したバキュームテクニックができる。 3. 補助者のポジションでの口腔内洗浄ができる。 4. 適切に頬粘膜の圧排ができる。 5. 適切に舌の圧排ができる。 6. 患者の安全に配慮できる。 7. 各自の課題を挙げることができる。 8. 課題の解決策を検討できる。	高山
12	8/27	バキューム テクニック 2	相互実習② 1) 口腔内洗浄 2) 上顎左側臼歯部 3) 下顎右側臼歯部 4) 各自の課題	1. 術者と協調したバキュームテクニックができる。 2. 補助者のポジションでの口腔内洗浄ができる。 3. 適切に頬粘膜の圧排ができる。 4. 適切に舌の圧排ができる。 5. 患者の安全に配慮できる。 6. 各自の課題を挙げることができる。 7. 課題の解決策を検討できる。	高山
13	9/3	コンポジットレジン 修復	1. 復習 2. 相互実習 V 級窩洞の CRF	1. コンポジットレジン修復についての知識を整理できる。 2. 適切な量のレジンを填塞できる。 3. 的確なフォーハンドができる。	高山
14	9/10	仮封材 1	1. 復習 1) テンポラリーストッピング 2) セメント系仮封材 3) 水硬性仮封材 4) 仮封用軟質レジン 5) サンドラック 2. 個人での実習 1) テンポラリーストッピング 2) 酸化亜鉛ユージノールセメント 3) 水硬性仮封材	1. 仮封材について知識の整理ができる。 2. 各種材料を使用して臼歯部 1 級窩洞の仮封操作ができる。 3. 実習を振り返り、反省・課題を挙げることができる。 4. 課題の解決策を検討できる。	高山
15	9/17	仮封材 2	1. 復習 フォーハンドでの仮封操作 2. 相互実習 1) テンポラリーストッピング 2) 酸化亜鉛ユージノールセメント 3) 仮封用軟質レジン	1. フォーハンドで仮封操作ができる。 2. フォーハンドで仮封の介助ができる。 3. 実習を振り返り、反省・課題を挙げることができる。 4. 課題の解決策を検討できる。	高山

16	10/2	診療室の管理	1. 医療廃棄物の取り扱い 2. 歯科診療所における患者対応の基本 3. 特別な配慮が必要な患者対応 4. 診療室の管理と環境整備 5. 薬品(薬物)・歯科材料の管理 6. 器械の整備、管理 7. 感染症患者への対応	1. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。 2. 患者対応の基本を説明できる。 3. 特別な配慮が必要な患者対応を説明できる。 4. 診療室の管理と環境整備を説明できる。 5. 薬品(薬物)・歯科材料の管理を説明できる。 6. 器械の整備、管理を説明できる。 7. 感染症患者への対応を説明できる。	高山
17	10/6	スポーツ歯科の目的	スポーツ歯科の歴史、スポーツ歯科の現状	スポーツ歯科の歴史を理解し、スポーツ歯科の重要性を理解する。	正村
18	10/9	スポーツと顎口腔領域の外傷	スポーツ外傷の予防法	スポーツを安心して行うためにはケガ、特に顎口腔領域の予防が重要であることを認識する。	正村
19	10/13	審美歯科治療	1. 美の概説 2. 審美歯科(美容歯科)診療の概要 3. 審美歯科診療における歯科衛生士の役割	1. 美の概念を説明できる。審美歯科治療の概要を説明できる。 2. 口腔における美の構成要素を列挙できる。 3. 歯、歯周組織、歯列、顔貌の美的な形態、色彩、機能を説明できる。 4. 歯科審美に対する心理的な問題点について自分の考えを説明できる。 5. 加齢による形態、色彩、機能を説明できる。 6. 審美歯科治療に必要な検査法を列挙し、説明できる。 7. 審美歯科治療の概要を説明できる。 8. 審美的な治療法を列挙し説明できる。 9. 歯科審美における歯科衛生士の役割を説明できる。	亀山
20	10/16	診療中に起きる事故とその対策	1. 原因 2. 脳貧血 3. 気道内異物 4. 異常出血 5. 偶発事故の防止と対応	1. 診療中に起こりうる事故や偶発症の原因を説明できる。 2. 事故を防ぐための対策を説明できる。 3. 脳貧血とその対策を説明できる。 4. 口腔内に異物を落とした際の対応を説明できる。 5. 異常出血の原因と対処法を説明できる。	高山
21	10/20	歯科におけるレーザー治療	1. 歯科用レーザーの種類と特徴 2. 歯科におけるレーザーの応用法 3. レーザーの安全管理	1. レーザー光の特徴を説明できる。 2. 歯科用レーザーを列挙し、各々の波長を説明できる。 3. 歯科用レーザーの種類による組織透過性の違いを説明できる。 4. レーザーの歯科における応用法を列挙できる。 5. 歯の硬組織に対するレーザーの作用を説明できる。 6. レーザーの安全な使用法と管理法を説明できる。 7. レーザー安全管理者の役割を説明できる。	亀山
22	10/23	主な全身疾患とその対応	1. 主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	1. 主な全身疾患の概要を説明できる。 2. 主な全身疾患の口腔所見の特徴を説明できる。 3. 主な全身疾患の診療での注意点を説明できる。	高山
23	10/30	インプラント治療	インプラント治療の専門的知識と技術の習得	1. インプラント治療の流れと準備、治療法、支持療法について説明できる。	各務

24	11/6	インプラントの メンテナンス	1. 基礎知識 2. メンテナンス	1. インプラントと天然歯の違いを説明できる。 2. インプラント周囲疾患のリスクファクターを説明できる。 3. メンテナンスの意義を説明できる。 4. メンテナンスにおける歯科衛生士の役割を説明できる。 5. プローブの使用目的を説明できる。 6. メンテナンスに必要な器具を列挙できる。	高山
25	11/10	周術期における歯 科診療の補助	周術期における口腔機能管理	1. 周術期における口腔機能管理の概要を説明できる。 2. 周術期の病態とその治療法を説明できる。 3. 周術期の歯科治療時の役割を説明できる。 4. 手術における術前、術中、術後の歯科衛生士の対応を説明できる。	高山
26	11/17	歯科訪問診療にお ける対応	1. 歯科訪問の診療補助の概要 1) 歯科衛生士の役割 2) 口腔健康管理 2. 歯科訪問診療の流れ	1. 歯科訪問の診療補助の概要を説明できる。 2. 歯科訪問診療における歯科衛生士の役割を説明できる。 3. 歯科衛生士が行う口腔健康管理を説明できる。 4. 歯科訪問診療の流れを説明できる。	高山
27	11/24	医療安全 1	1. 医療安全 2. 診療室での補助業務 3. 医療法と医療安全対策	1. 医療安全の概念とその対策を説明できる。 2. インシデントとアクシデント報告の目的を説明できる。 3. グループワークの意義を説明できる。	高山
28	12/1	医療安全 2	グループワーク① 1) 「インシデント・アクシデント」 事例検討 2) 発表	1. インシデント・アクシデントの事例を検討できる。 2. グループワークへ積極的に参加できる。	高山
29	12/8	医療安全 3	グループワーク② 1) 「インシデント・アクシデント」 原因考察および予防策検討 2) 発表	1. インシデント・アクシデントの原因を考察できる。 2. インシデント・アクシデントを未然に防ぐための対策を検討できる。 3. グループワークへ積極的に参加できる。	高山
30	12/9	医療安全 4	1. グループワーク③ 1) 「インシデント・アクシデント」 報告書作成 2) 発表 2. まとめ	1. インシデント・アクシデント報告書を作成できる。 2. グループワークへ積極的に参加できる。	高山

科 目 名			科 目 名		
健康管理			守田麻由未、島田陽子 竹岡亜紀、三村杏奈、高山きよ江		
学 年	学 期	単 位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	前期	1	20	演習	○
授業の目的(GIO)		1. 経絡、リンパなどを使い将来歯科衛生士として健康的に活躍できるセルフケアを身につける。 2. 「健康」について考察し、患者の健康を支える医療職としての自覚を新たにする。			
教科書		1～5 回 配付プリント			
成績評価		出席状況、参加状況、授業態度、プレゼンテーションの結果を評価対象とする。			
実務経験のある教員 及び実務経験職種		歯科衛生士：島田陽子			
実務経験を踏まえた 授業の内容		歯科衛生士として病院等の勤務経験のある教員が、「健康」について考察し、患者の健康を支える医療職としての自覚を再認識させる。			
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	6/4	代替医療について	1. 経絡と経穴 2. リンパについて 3. ダイエットについて	自分にとってプラスになる事を見つける。 リンパストレッチの実践。	守田
2	6/11	アンケート順位 1	1. 姿勢 歩き方 2. アンケートに沿う	自分の姿勢や歩き方の癖を知る。 リンパストレッチ マッサージの実践。	守田
3	6/18	アンケート順位 2	1. 体のゆがみ 2. アンケートに沿う	体のゆがみが健康に深く関係する事を知る。 リンパストレッチ マッサージの実践。	守田
4	6/25	アンケート順位 3	1. 腰痛について 2. アンケートに沿う	腰痛や肩こりの簡単ケアができる。 リンパストレッチ マッサージの実践。	守田
5	7/2	アンケートから	1. その他の症状について 2. アンケートに沿う	リンパストレッチやリンパマッサージを使ってセルフケアができるようになる。	守田
6	7/16	健康を考える 1	計画	1. テーマを決めることができる。 2. 発表までの計画を立てることができる。	島田 他
7	7/30	健康を考える 2	準備	1. 必要な資料を準備できる。 2. プレゼンテーションの構成を計画できる。 3. パワーポイントを使ってプレゼンテーションの準備ができる。	島田 他
8	8/20	健康を考える 3	発表 1	1. 聴き手に配慮したプレゼンテーションができる。 2. 発表者に対し感想を述べることができる。	島田 他
9	8/27	健康を考える 4	発表 2	1. 聴き手に配慮したプレゼンテーションができる。 2. 発表者に対し感想を述べることができる。	島田 他
10	9/3	健康を考える 5	発表 3	1. 聴き手に配慮したプレゼンテーションができる。 2. 発表者に対し感想を述べることができる。	島田 他

科 目 名			担当教員		
歯科衛生士特論			島田陽子、竹岡亜紀、三村杏奈、高山きよ江、他		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	8	240	講義	○
授業の目的(GIO)		これまで学んだ講義等を復習し、各自の課題を明確にすると共に、「歯科衛生士国家試験出題基準」を確認しながら歯科衛生士国家試験に備える。			
教科書		各科目 指定教科書 徹底分析 年度別歯科衛生士国家試験問題集 歯科衛生士国家試験出題基準 ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策①～⑤ 等			
成績評価		定期試験結果を評価対象とする。			
実務経験のある教員 及び実務経験職種		歯科衛生士：島田陽子、竹岡亜紀、三村杏奈、高山きよ江 歯科医師：田所治、堀部寛治、海野俊平、上原俊介、中村卓、村上聡、嶋田勝光、今村泰弘、定岡直、中村美どり、亀山敦史、増田宜子、尾崎友輝、宮國茜、横井由紀子、霜野良介、平井博一郎、内川恵里、松村奈穂美、森山敬太、川原良美、長内秀、谷山貴一、葩島弘之、朝比奈澁直 臨床検査技師：中西正人			
実務経験を踏まえた 授業の内容		歯科衛生士として病院等の勤務経験のある教員が、国家試験出題基準を踏まえた講義を行い、歯科衛生士国家試験合格のために知識を統合させる。 歯科医師として病院での勤務経験のある教員が、国家試験出題基準を踏まえた講義を行い、歯科衛生士国家試験合格のために知識を統合させる。 歯科医師として病院での勤務経験のある教員が、国家試験出題基準を踏まえた講義を行い、歯科衛生士国家試験合格のために知識を統合させる。 臨床検査技師として病院での勤務経験のある教員が、国家試験出題基準を踏まえた講義を行い、歯科衛生士国家試験合格のために知識を統合させる。			
回数	科目	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	歯科予防処置論	歯科予防処置 総論	1. 歯科予防処置の概要 2. 歯科予防処置の基礎知識①	1. 歯科予防処置を目的別に分類して内容を説明できる。 2. 歯周組織の特徴を説明できる。 3. 歯の付着物・沈着物を説明できる。	竹岡
2		歯周病予防処置 1	1. 歯科予防処置の基礎知識② 2. 診査・スケーリングの使用器具 ・エキスポローラー ・ポケットプローブ ・各種スケーラー	1. 歯周疾患の進行と歯周組織の病的変化を説明できる。 2. 診査・スケーリングに必要な器具の使用目的と特徴を説明できる。	竹岡
3		歯周病予防処置 2	1. プローブの操作 2. スケーラーの操作 ・手用スケーラー ・超音波スケーラー ・エアスケーラー 3. シャーピング	1. プローブの操作法を説明できる。 2. 各種スケーラーの操作法を説明できる。 3. シャーピング法を説明できる。	竹岡
4		歯周病予防処置 3	1. 歯面清掃・歯面研磨 2. 偶発事故の予防とその対応 3. メインテナンス	1. 歯面清掃・歯面研磨法を説明できる。 2. 器具破損時の対応を説明できる。 3. メインテナンスの位置づけを説明できる。	竹岡
5		う蝕予防処置 1	1. う蝕予防処置の基礎知識 2. う蝕活動性試験	1. う蝕予防処置の種類と適応を説明できる。 2. う蝕活動性試験の目的、種類と特徴を説明できる。	竹岡

6		う蝕予防処置 2	1. う蝕予防法 ・フッ化物歯面塗布法 ・フッ化ジアンミン銀塗布法 ・小窩裂溝充填塞法 ・フッ化物洗口法 2. 確認テスト	1. 使用製剤・材料の特徴を説明できる。 2. 術式と取扱いの注意事項を説明できる。 3. 術後の注意事項を説明できる。 4. 自身の課題を明確にできる。	竹岡
7	歯科保健指導論	歯科保健指導 総論	1. 概要 2. 口腔衛生管理の基礎知識 知識の整理・確認テスト	1. 歯科保健指導の意義と目的を説明できる。 2. 保健行動について説明できる。 3. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。 4. 口腔保健に関する情報と収集について説明できる。	三村
8		情報収集	1. 対象把握 2. 全身状態の把握 3. 歯、口腔状態の把握 知識の整理・確認テスト	1. 歯科保健指導における対象把握法を説明できる。 2. 各ライフステージの特徴に合った望ましい歯科保健行動と生活行動を説明できる。 3. 日常生活の自立度を説明できる。 4. 業務記録について説明できる。	三村
9		口腔衛生管理	1. 口腔清掃指導の基礎知識 2. 指導の要点 3. 対象別の指導法 知識の整理・確認テスト	1. 口腔清掃用具の種類と特性を説明できる。 2. 口腔清掃状態の評価方法を説明できる。 3. 口腔清掃自立度(BDR)を説明できる。 4. 口腔清掃指導法の要点を説明できる。 5. 義歯・矯正装置の清掃及び管理を説明できる。 6. 各ライフステージの歯科保健指導法を説明できる。	三村
10		生活習慣指導 食生活指導	1. 生活指導の基礎知識 2. 食生活の指導 3. 生活習慣 4. 禁煙支援 知識の整理・確認テスト	1. 生活指導の基礎知識を説明できる。 2. 食生活指導の基礎知識を説明できる。 3. 全身疾患と歯科疾患を関連付けて説明できる。 4. 禁煙支援について説明できる。	三村
11		健康教育	1. 歯科衛生教育活動の基礎知識 2. 保健所、市町村保健センター 3. 保育所、幼稚園 4. 学校 5. 事業所 6. 在宅〔居宅〕、施設 知識の整理・確認テスト	1. 地域歯科保健活動における歯科衛生士の役割を述べることができる。 2. 健康教育における各対象への指導法を説明できる。 3. 障害者・高齢者の保健・医療・福祉について説明できる。 4. 訪問指導について説明できる。	三村
12		まとめ	知識の整理・確認テスト	過去の国家試験出題問題および類似問題を解き知識の整理ができる。	三村
13	歯科診療補助論	歯科診療補助論 1	I. 総論 1. 概要 2. 情報収集 3. 患者への対応 4. 診療時の共同動作 5. 診療設備の管理 6. 医療安全管理 7. 滅菌・消毒	1. 歯科衛生士国家試験出題基準を確認できる。 2. 講義・実習を振り返り知識の整理ができる。 3. 各項目の理解度を判断できる。 4. 各項目について説明できる。	高山

14	歯科診療補助論	歯科診療補助論 2	II. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理 1. 模型用材料 2. 合着・接着・仮着用材料 3. 印象用材料 4. 歯冠修復用材料 5. 仮封用材料 6. その他材料	1. 歯科衛生士国家試験出題基準を確認できる。 2. 講義・実習を振り返り知識の整理ができる。 3. 各項目の理解度を判断できる。 4. 各項目について説明できる。	高山
15		歯科診療補助論 3	III. 治療時の診療補助 1. 保存治療時の診療補助 2. 補綴治療時の診療補助 3. 口腔外科治療時の診療補助 4. 矯正歯科治療時の診療補助 5. 小児歯科治療時の診療補助 6. 高齢者治療時の診療補助 7. 障がい者治療時の診療補助 8. エックス線写真撮影時の診療補助他	1. 歯科衛生士国家試験出題基準を確認できる。 2. 講義・実習を振り返り知識の整理ができる。 3. 各項目の理解度を判断できる。 4. 各項目について説明できる。	高山
16		歯科診療補助論 まとめ	確認テスト	過去の国家試験出題問題および類似問題を解き、理解不足な部分を明確にできる。	高山
17		問題解説 1	1. 自己分析 2. 解説	1. 各自の課題を明確にできる。 2. 疑問点を解決できる。 3. 今後の学習計画を立てることができる。	高山
18		問題解説 2			
19	人体の構造と機能Ⅰ	人体の構造と機能Ⅰ-1	まとめ	ヒト(全身)の肉眼的・組織学的構造について復習、総括する。	堀部
20		人体の構造と機能Ⅰ-2	まとめ	国家試験問題を理解する。	堀部
21	歯・口腔の構造と機能Ⅰ	口腔組織発生学 1	まとめ	歯と口腔の組織、発生について復習、総括する。	堀部
22		口腔組織発生学 2	まとめ	国家試験問題を理解する。	堀部
23		口腔解剖学 1	歯の解剖学のまとめ 1	前歯、乳前歯について復習、総括する。	田所
24		口腔解剖学 2	歯の解剖学のまとめ 2	小臼歯、乳臼歯について復習、総括する。	田所
25		口腔解剖学 3	歯の解剖学のまとめ 3	大臼歯について復習、総括する。	田所
26		口腔解剖学 4	口腔にみえるかたち	口腔の諸形態について復習、総括する。	田所
27		口腔解剖学 5	咽頭・喉頭	咽頭・喉頭について復習、総括する。	田所
28	人体の構造と機能Ⅱ	血液・循環・呼吸	血液循環・呼吸運動	1. 血液循環について説明できる。 2. 呼吸運動のメカニズムが説明できる。	海野
29		神経・感覚・筋・運動	中枢神経・末梢神経	1. 神経の機能が説明できる。 2. 筋肉が動くメカニズムと反射が説明できる。	海野
30		消化・体温・内分泌	消化管機能・体温調節・内分泌調節	1. 消化・吸収のメカニズムが説明できる。 2. 内分泌調節のメカニズムが説明できる。	海野
31		感覚・咀嚼・嚥下	感覚機能・咀嚼運動・嚥下反射	1. 口腔内の感覚が説明できる。 2. 咀嚼運動の役割、嚥下反射が説明できる。	海野
32		唾液・発声	唾液の性状と機能・発声の機序	1. 唾液分泌の機序や機能が説明できる。 2. 発声のメカニズムが説明できる。	海野

33		過去問分析① (人体の構造と機能Ⅱ)	細胞小器官、消化酵素、糖質、脂質、タンパク質	過去 10 回分の国家試験の中から、左記に示した項目に関する問題について、必要な知識を整理し、ポイントを理解する。	上原
34		過去問分析② (人体の構造と機能Ⅱ / 歯・口腔の構造と機能Ⅱ)	DNA、ビタミン、結合組織、唾液の成分	過去 10 回分の国家試験の中から、左記に示した項目に関する問題について、必要な知識を整理し、ポイントを理解する。	上原
35		過去問分析③ (歯・口腔の構造と機能Ⅱ)	カルシウム、ペリクル、プラーク、う蝕、免疫	過去 10 回分の国家試験の中から、左記に示した項目に関する問題について、必要な知識を整理し、ポイントを理解する。	上原
36		総括と演習問題	予想問題	1. 前回までの講義内容を踏まえた演習問題に取り組み、必要な知識を再確認する。 2. これまでに使われていない図を用いた問題について考え方を身に着ける。	上原
37	病理学・口腔病理学	病因論、細胞・組織の傷害、増殖と修復	内因、外因、変性、萎縮、壊死、アポトーシス、肥大と過形成(増生)、化生、再生、創傷の治癒と異物の処理、肉芽組織と器質化	1. 病因論について理解する。 2. 細胞・組織の傷害を説明する。 3. 増殖と修復を説明できる。	村上
38		循環障害、炎症、免疫異常と移植、遺伝性疾患と先天異常、腫瘍総論	全身の循環障害、局所の循環障害、循環血液量の障害、閉塞性の障害、炎症の概念と徴候、炎症の原因、炎症の機序と病態、炎症の分類、急性炎症、慢性炎症、肉芽腫性炎、アレルギー反応(過敏症)、自己免疫疾患、免疫不全症候群、移植免疫、染色体異常、先天異常、腫瘍の概念と疫学、腫瘍の原因と発生・進展の機序、腫瘍の組織学的特徴、腫瘍の分類、上皮性と非上皮性、良性和悪性、前癌病変	1. 循環障害を分類し説明する。 2. 炎症と免疫異常と移植、遺伝性疾患と先天異常を理解し説明できる。 3. 腫瘍を分類し説明できる。	村上
39		歯の発育異常、う蝕、象牙質、セメント質の増生、歯髄の病変、根尖部歯周組織の病変、歯周組織の病変、口腔創傷の治癒	大きさの異常、形の異常、数の異常、構造の異常、色の異常、萌出の異常、エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕、第二象牙質、第三象牙質、象牙粒、セメント質の増生とセメント粒、歯髄充血、歯髄の変性、歯髄壊死、歯髄炎の分類と特徴、歯髄壊疽、根尖性歯周炎の分類と特徴、歯周病の分類と特徴、口腔粘膜の治癒、拔牙創の治癒	1. 歯の発育異常、う蝕について説明できる。 2. 象牙質、セメント質、歯髄に起こる病変を分類し、説明できる。 3. 根尖性、辺縁性歯周組織の病態を説明できる。 4. 口腔創傷の治癒を説明できる。	嶋田
40		口腔粘膜の病変、顎骨の病変、唾液腺の病変	水疱性病変、潰瘍性病変、白色病変、赤色病変、色素性病変、顎骨の炎症性疾患、歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、腫瘍類似病変、唾液腺の炎症性疾患、唾石症、粘液嚢胞、唾液腺腫瘍	1. 口腔粘膜の病変を説明できる。 2. 口腔の嚢胞を分類し説明できる。 3. 口腔の腫瘍、腫瘍様病変を説明できる。 4. 口腔癌の特徴を説明できる。	嶋田

41	薬理学・歯科薬理学	総論 1	1. 薬物の定義と分類 2. 薬物の作用 3. 用量と反応 4. 薬物動態1	1. 法律による薬物の定義と分類および保管方法を説明できる。 2. 薬理作用の基本形式とメカニズムを説明できる。 3. 用量と反応(ED ₅₀ 、LD ₅₀ 、安全域など)を説明できる。 4. 薬物動態の基本事項を理解する。	今村
42		総論 2 各論 1	1. 薬物動態2 2. 薬物連用・相互作用・副作用 3. 自律神経系に作用する薬物	1. 薬物投与方法と生物学的利用能を説明できる。 2. 薬物連用・相互作用・副作用を理解する。 3. 交感神経・副交感神経作動薬・遮断薬の作用(機序、主・副作用)を理解する。	今村
43		各論 2	局所麻酔薬、止血薬・抗血栓薬、抗感染薬	局所麻酔薬、止血薬・抗血栓薬、抗感染薬の作用(機序、主・副作用)を理解する。	今村
44		各論 3	消毒薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫増強・抑制薬	消毒薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫増強・抑制薬の作用(機序、主・副作用)を理解する。	今村
45	微生物学・口腔微生物学	細菌総論	細菌の一般性状と病原性、滅菌と消毒、感染の種類	細菌の一般性状、および滅菌と消毒の原理を理解し、具体的方法が説明できる。	中村(卓)
46		免疫	免疫の種類と機構、アレルギー	体液性免疫と細胞性免疫の違い、アレルギーの分類および定義が説明できる。	中村(卓)
47		病原細菌	口腔常在菌、グラム陽性菌、グラム陰性菌	口腔内に多くの細菌が生息していることを理解し、ミュータンスレンサ球菌とう蝕の関わりが説明できる。	中村(卓)
48		真菌、ウイルス	カンジダ、DNA ウイルス、RNA ウイルス	真菌およびウイルスの一般性状を理解し、カンジダ、HBV、HIV の特徴が説明できる。	中村(卓)
49	口腔衛生学Ⅰ	う蝕予防	歯・口腔の不潔物、う蝕予防、フッ化物	歯面の付着物、う蝕の発生・予防機序を説明できる。	定岡
50		歯周病・口臭	歯周病予防、口臭	歯周病の発症・予防機序、全身との関連性、口臭測定について説明できる。	定岡
51	衛生学・公衆衛生学	予防医学と疫学、人口問題	健康の概念、予防医学、人口問題	健康日本 21、プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション、Leavell&Clark の予防の概念、人口動向・静態動態統計について説明できる。	定岡
52		健康と環境	環境衛生、食中毒	大気・温熱・上下水道・廃棄物処理・食中毒について説明できる。	定岡
53		新興感染症と再興感染症	感染症法と検疫法、予防接種法	感染症分類や成立・経路と予防接種をはじめとする予防法・検疫を説明できる。	定岡
54	口腔衛生学Ⅱ	保健医療に関する統計調査と方法	歯科衛生統計、疫学統計の方法や進め方、まとめ方など	統計調査の種類と方法について説明できる。	定岡
55		ライフステージにおける歯科保健①	地域・母子・学校・成人保健・歯科保健	地域(保健所・市町村保健センター)・母子・学校・成人・産業・高齢者歯科保健について説明できるようにする。	定岡
56		ライフステージにおける歯科保健②	産業・高齢者・災害時・国際保健と歯科保健	産業・高齢者・災害時・国際保健と歯科保健について説明できる。	定岡

57	衛生行政・社会福祉	保険・医療・福祉の行政と制度	衛生行政の目的と組織	憲法と衛生行政の目的と、組織について説明できる。	定岡
58		歯科医療関係法規	歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法、薬剤師法、医療法、歯科口腔保健法、薬事法、地域保健法	歯科医療関係法規を説明できる。	定岡
59		社会保障制度Ⅰ	社会保険、医療保険、労働者災害補償保険、介護保険	社会保障制度について説明できる。	定岡
60		社会保障制度Ⅱ	社会福祉制度、生活保護制度、児童福祉、障害者福祉	社会福祉制度について説明できる。	定岡
61	歯科衛生士概論	歯科衛生士とその業務1	1. 出題基準 2. 衛生行政報告 3. 歯科衛生士法	1. 出題基準における他教科との関連を理解できる。 2. 歯科医療従事者数の推移について説明できる。 3. 過去の国家試験問題を解説できる。	島田
62		歯科衛生士とその業務2	まとめ	1. 過去の国家試験問題を解説できる。	島田
63	保存修復・歯内療法学	保存修復学総論1	1. 歯の硬組織疾患 2. う蝕の病因と病態 3. 歯の硬組織の検査と診断	1. 歯の硬組織疾患を分類できる。 2. 歯の硬組織疾患について、それぞれの病因と病態を説明できる。 3. 歯の硬組織疾患の好発年齢、好発部位を説明できる。 4. う蝕のリスクファクターを列举できる。 5. う蝕の病態と進行を説明できる。 6. 歯の硬組織疾患に対する検査法を列举できる。 7. 各種検査法の特徴と適応を説明できる。	亀山
64		保存修復学総論2	1. MID(ミニマルインターベンションデンティストリー) 2. う蝕の除去法と窩洞形成法 3. 象牙質・歯髄複合体の保護法 4. 修復前準備	1. MIDの考え方を概説できる。 2. 再石灰化療法を説明できる。 3. エナメル質う蝕の処置法を説明できる。 4. 象牙質う蝕の処置法を説明できる。 5. 根面う蝕の処置法を説明できる。 6. う蝕治療に用いる器具を列举し、各々を説明できる。 7. 窩洞を分類し、説明できる。 8. 窩洞の構成要素を列举できる。 9. 象牙質・歯髄複合体の保護法を列举できる。 10. 象牙質・歯髄複合体の保護に用いる器材、薬剤を説明できる。 11. 修復に必要な前準備を列举し、器具や使用法を説明できる。	亀山

65	保存修復・歯内療法学	保存修復学各論1	直接法修復 1. コンポジットレジン修復 2. グラスアイオノマーセメント修復	1. コンポジットレジン修復の適応を説明できる。 2. コンポジットレジン修復の術式を説明できる。 3. コンポジットレジン修復に必要な器材を列挙し、使用法を説明できる。 4. レジン接着システムを分類し説明できる。 5. コンポジットレジンの歯質への接着機構を説明できる。 6. グラスアイオノマーセメントを分類できる。 7. グラスアイオノマーセメントの特徴と用途を説明できる。 8. グラスアイオノマーセメント修復の術式を説明できる。 9. グラスアイオノマーセメント修復に必要な器材を列挙し、使用法を説明できる。	亀山
66		保存修復学各論2	間接法修復 1. メタルインレー修復 2. コンポジットレジンインレー修復 3. セラミックインレー修復	1. メタルインレー修復の適応を説明できる。 2. メタルインレー修復の術式を説明できる。 3. メタルインレー修復に必要な器材を列挙し、使用法を説明できる。 4. コンポジットレジンインレー修復の長所と短所を説明できる。 5. コンポジットレジンインレー修復の術式を説明できる。 6. コンポジットレジンインレー修復に必要な器材を列挙し、使用法を説明できる。 7. セラミックインレー修復の長所と短所を説明できる。 8. セラミックインレー修復の種類を列挙できる。 9. セラミックインレー修復の術式を説明できる。 10. セラミックインレー修復に必要な器材を列挙し、使用法を説明できる。 11. インレー合着時の誤飲・誤嚥対策を説明できる。 12. 各種インレーの装着に用いることができるセメントを選択し、その使用法と合着・接着メカニズムを説明できる。	亀山
67		保存修復学各論3	1. 変色歯への対応 2. 象牙質知覚過敏への対応 3. 修復治療の術後管理	1. 歯の変色の原因を説明できる。 2. メタルインレー修復の術式を説明できる。 3. 変色歯の処置法を列挙し説明できる。 4. 漂白法を分類し、説明できる。 5. 歯科用漂白剤の種類を説明できる。 6. 象牙質知覚過敏症のメカニズムを説明できる。 7. 象牙質知覚過敏症の処置法を列挙し説明できる。 8. 象牙質知覚過敏処置に用いる薬剤とメカニズムを説明できる。 9. 修復治療の術後管理を概説できる。 10. 修復物脱落時の対応を説明できる。 11. 補修修復の適応とその術式、使用器材を説明できる。	亀山
68		無菌処置、象牙質知覚過敏症	無菌処置の種類、象牙質知覚過敏症の原因、症状、処置	1. 無菌処置の種類について説明できる。 2. 象牙質知覚過敏症の原因、症状、処置について説明できる。	宮國

69		歯髄疾患、歯髄の保存療法	歯髄疾患の種類、特徴 歯髄保存療法の種類、術式	1. 歯髄疾患の種類、特徴について説明できる。 2. 歯髄保存療法の種類、術式について説明できる。	宮國
70		根尖性歯周炎、根未完成歯	根尖性歯周炎の種類、特徴 根未完成歯の処置	1. 根尖性歯周炎の種類、特徴について説明できる。 2. 根未完成歯の処置について説明できる。	宮國
71		抜髄、感染根管治療	抜髄法の術式、 感染根管治療の術式	1. 抜髄法の術式について説明できる。 2. 感染根管治療について説明できる。	宮國
72		外科的歯内療法、歯の外傷、偶発事故	外科的歯内療法、偶発事故の種類と処置、歯の外傷の処置	1. 外科的歯内療法の種類と処置について説明できる。 2. 偶発事故の種類と処置について説明できる。 3. 歯の外傷の処置について説明できる。	宮國
73	歯周療法学	歯周組織の構造	歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の構造・機能	正常歯周組織の構造、機能を理解、再確認する。	尾崎
74		歯周疾患の病因	局所、宿主、環境の病因因子	歯周疾患を多因子疾患として捉え、その因子について理解、再確認する。	尾崎
75		歯周治療の流れ、治療計画	歯周治療の流れ、治療計画	歯周治療の流れを説明でき、検査、診断、予後から治療計画を立案する過程を理解する。	尾崎
76		国家試験問題対策	国家試験過去問の解説	国家試験過去問から傾向を理解し、対策を立てる。	尾崎
77	歯科補綴学	冠・架工義歯学の復習(1)	講義、実習内容の復習①	国家試験にむけて、必要な知識をあらためて復習、習得する。	平井
78		冠・架工義歯学の復習(2)	講義、実習内容の復習②	国家試験にむけて、必要な知識をあらためて復習、習得する。	平井
79		冠・架工義歯学の復習(3)	講義、実習内容の復習③	国家試験にむけて、必要な知識をあらためて復習、習得する。	平井
80		全部床義歯学の復習	講義、実習内容の復習	国家試験にむけて、必要な知識をあらためて復習、習得する。	霜野
81		部分床義歯学の復習	講義、実習内容の復習	国家試験にむけて、必要な知識をあらためて復習、習得する。	霜野
82	口腔外科学	口腔外科(1)	顎口腔外科疾患の総括・演習	顎口腔領域の疾患の特徴・診断法・治療法を復習し、理解を深める。	松村
83		口腔外科(2)	顎口腔外科疾患の総括・演習	顎口腔領域の疾患の特徴・診断法・治療法を復習し、理解を深める。	松村
84		口腔外科(3)	顎口腔外科疾患の総括・演習	顎口腔領域の疾患の特徴・診断法・治療法を復習し、理解を深める。	内川
85		口腔外科(4)	顎口腔外科疾患の総括・演習	顎口腔領域の疾患の特徴・診断法・治療法を復習し、理解を深める。	内川
86	小児歯科学	成長発育期の歯科診療	歯科診療上で理解する必要がある全身や口腔の発育・発達	歯科治療において必要な小児期の特徴について理解する。	森山
87		小児患者の対応	診療時に必要な小児の心理や歯科治療時の対応法	小児患者の対応法について理解する。	森山
88		小児歯科診療における補助1	1. 補助者の役割 2. 治療内容による補助者の役割	歯科診療内容ごとの診療補助について理解する。	森山
89		小児歯科診療における補助2	治療内容による補助者の役割	歯科診療内容ごとの診療補助について理解する。	森山

90	歯科矯正学	矯正歯科	不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療 演習・解説	1. 正常咬合の概念を説明できる。 2. 不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	川原 (良)
91		矯正歯科	矯正装置および矯正器材・材料 演習・解説	1. 矯正装置の種類と用途を説明できる。 2. 矯正治療に用いる器材を説明できる。	川原 (良)
92		矯正歯科	矯正治療の力学・生体反応 演習・解説	矯正治療に必要な力学を説明でき、矯正治療による生体の反応を説明できる。	川原 (良)
93		矯正歯科	総復習、演習・解説	歯科矯正学における国家試験に必要な知識を総復習する。	川原 (良)
94	歯科放射線学	歯科放射線学 1	総括	歯科放射線学の必須とされる項目について理解できる。	長内
95		歯科放射線学 2	演習問題	歯科放射線学の必須とされる項目について説明できる。	長内
96	歯科麻酔学	全身状態評価 局所麻酔 歯科治療時の全身偶発症 精神鎮静法 心肺蘇生法	1. バイタルサイン 2. 局所麻酔薬 3. 神経性ショック 4. 過換気症候群 5. アナフィラキシーショック 6. 吸入鎮静法 7. 静脈内鎮静法 8. 一次救命処置	1. バイタルサインを把握できる。 2. 局所麻酔薬を分類できる。 3. 歯科治療時の全身偶発症を説明できる。 4. 精神鎮静法の目的を説明できる。 5. 精神鎮静法の種類を説明できる。 6. 一次救命処置を説明できる。	谷山
97	障害者歯科学	障害者歯科学総論 1	障害者の特徴	発達障害、身体障害、精神障害について説明する。	朝比奈 (混)
98		障害者歯科学総論 2	障害者の歯科医療	障害者と歯科保健について説明する。	朝比奈 (混)
99	高齢者歯科学	高齢者歯科学総論 1	加齢に伴う全身のおよび口腔の変化	加齢現象について学び全身のおよび口腔の加齢変化を説明する。	朝比奈 (混)
100		高齢者歯科学総論 2	高齢者の疾患と歯科医療	高齢者特有の疾患について学び、歯科的対応を説明する。	朝比奈 (混)
101	栄養学・栄養指導法	栄養学・栄養指導法(1)	国家試験過去問を用いた講義、実習内容の復習①	国家試験問題を解くために、栄養学・栄養指導法の知識を応用できる。	中村 (美)
102		栄養学・栄養指導法(2)	国家試験過去問を用いた講義、実習内容の復習②	国家試験問題を解くために、栄養学・栄養指導法の知識を応用できる。	中村 (美)
103		栄養学・栄養指導法(3)	国家試験過去問を用いた講義、実習内容の復習③	国家試験問題を解くために、栄養学・栄養指導法の知識を応用できる。	中村 (美)
104		栄養学・栄養指導法(4)	国家試験過去問を用いた講義、実習内容の復習④	国家試験問題を解くために、栄養学・栄養指導法の知識を応用できる。	中村 (美)
105	歯科診療補助論	模型材	石膏模型材	石膏の種類と硬化時間について理解する。	横井
106		歯冠修復材	金属、陶材、硬質レジン	金属、陶材、硬質レジンの特徴と使用用途について理解する。	横井
107		成形修復材	コンポジットレジン	コンポジットレジンの組成と重合反応について理解する。	横井
108		臨床検査	臨床検査のまとめ	臨床検査の知識を再確認する。	中西
109	摂食・嚥下学	摂食・嚥下の基礎	摂食・嚥下とその障害についての基礎を説明する。	摂食・嚥下障害の基礎的なことについて理解する。	葩島
110		摂食・嚥下の臨床	摂食・嚥下リハビリテーションの臨床について説明する。	摂食・嚥下リハビリテーションの臨床について理解する。	葩島

科 目 名			担当教員		
臨地実習Ⅱ			松本歯科大学病院 歯科医師 松本歯科大学病院 歯科衛生士		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	10	450	実習	○
実務経験のある教員 及び実務経験職種	歯科医師: 吉成伸夫、内川竜太郎、尾崎友輝、霜野良介、鈴木荘太、平井博一郎、中山洋子、内川恵里、 松村奈穂美、植田章夫、森山敬太、川原良美、西村恵子、中根隆、黒岩博子、長内秀、森こず恵、 谷山 貴一、 上田敬介、朝比奈滉直、森 啓、大木絵美、高谷達夫、伊能利之、喜多村洋幸 歯科衛生士: 西窪結香、矢島絵美、西澤恵美、中島香奈子、笠原由香、三井美幸、阪西あい、柳沢みさき				
実務経験を踏まえた 授業の内容	歯科医師として病院での勤務経験のある教員が、卒業後、直ちに歯科臨床に携われるように、円滑な歯科診療を進めるための診療補助について習得させる。 歯科衛生士として病院での勤務経験のある教員が、卒業後、直ちに歯科臨床に携われるように、知識と手技の向上を図る指導を行い、患者とのコミュニケーション、対応法について習得させる。				

臨地実習の内容	保存科	
担当	歯科医師: 内川竜太郎 歯科衛生士: 中島香奈子	
授業の目的 (GIO)	保存修復学ならびに歯内療法学について、講義で学んだ理論と基礎実習で習得した手技を基にして、臨床実習においては卒業後直ちに一般歯科臨床に携われるまでに、知識と手技を向上する。	
評価方法	1. 実習の進捗状況 2. 臨床ケースに対するレポート・口頭試問 3. 習得キーワードの習得 4. 実習に臨む態度、身だしなみ、出席状況	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
診療のシステム	指導者より説明を受け、検印を受ける。	診療室の設備・運用、機器の配置についての知識を習得する。
各種器械類の理解	各種器械類の用途について説明を受け、さらに超音波発生装置、パルプテスターについてはレポートを提出し検印を受ける。	超音波発生装置、根管長測定器、パルプテスターについての使用目的、使用方法についての知識を習得する。
診療見学・補助	診療見学、補助を行い、治療の術式および内容に関するレポートを作成、提出。習得キーワード項目に検印をうけ、満了する。満了できない場合は口頭試問にて補う。	器材準備、術式、処置の流れ、フォーハンドテクニックについての知識と手技を習得する。
歯科材料の取り扱い	各種歯科材料の用途についてレポート提出と口頭試問を行い、さらにセメント、印象材については説明を受けた上で、各自練習を行い指導者より評価を受ける。	歯科材料の使用目的と使用方法についての知識を習得し、取り扱いについての手技を向上させる。
相互実習	相互実習を行い指導者より評価を受ける。	歯科材料の取り扱い、バキュームテクニック、患者への対応を理解したうえで、相互実習を行いより高い手技を習得する。
<注意事項> 1. 欠席せずに、自発的かつ積極的に実習に臨むこと。 2. 習得キーワードを積極的に習得すること。		

臨地実習の内容	保存科（歯周病）	
担当	歯科医師：尾崎友輝、吉成伸夫 歯科衛生士：柳沢みさき	
授業の目的（GIO）	歯周療法学および歯科予防処置論の講義、実習で習得した知識、技能をもとに、各種歯周治療における介助、患者教育、手技を習得する。	
評価方法	実習に臨む姿勢、出席状況、臨床実習（見学、介助、実施）にて習得すべき全てのケースの終了、レポート提出、口頭試問によって評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
歯周組織検査	各歯周組織検査項目の測定および、結果の説明 歯周組織検査の相互実習、患者実習	歯周組織検査の必要性、使用器具の使用法を理解し、実施する。 各歯周組織検査項目について測定し、理解し、その結果を適切に説明する。
口腔内写真撮影	口腔内写真撮影の介助、相互実習	口腔内写真の必要性を理解し、説明をする。 また、相互実習を通して、適切な介助、および撮影が行えるようにする。
ブラークコントロール	O'Leary の PCR の測定の相互実習、患者実習 業務記録の作成	歯周治療におけるブラークコントロールを理解し、実施する。業務記録を作成する。
歯肉縁上スケーリング	歯肉縁上スケーリングの見学、相互実習、患者実習	エアスケーラー、超音波スケーラー、手用スケーラー（鎌形スケーラー）を選択し、歯肉縁上歯石除去の基本手技を理解し、実施する。
スケーリング・ルートプレーニング	スケーリング・ルートプレーニングの見学、患者実習	適切なキュレットタイプスケーラーを選択し、スケーリング・ルートプレーニングの基本手技を理解し、実施する。
プロフェッショナルメカニカルトゥースクリーニング（PMTC）	PMTC の見学、相互実習、患者実習	PMTC の必要性を理解し、目的に応じた道具の選択、および基本手技を実施する。
歯周外科治療	歯周外科治療の見学、介助	各種歯周外科治療を見学し、施行した歯周外科治療の目的、術式、種類を理解する。
咬合調整・暫間固定	咬合調整・暫間固定の見学、介助	咬合調整・暫間固定の必要性を理解し、適切な介助が行えるようにする。
再評価検査	再評価検査の見学、患者実習	再評価検査の必要性、内容を理解し、実施する。また、その結果を適切に説明する。
メンテナンス・サポーター・ペリオドンタルセラピー（SPT）	メンテナンス・SPT の見学、患者実習	メンテナンス・SPT の必要性、内容を理解し、実施する。
<注意事項> 1. 常に清潔を重んじた身だしなみに注意を払い、不適切と思われる髪型、化粧などはしてはならない。 2. 病院内では、私語を慎み、機敏な行動を心がけ、時間厳守とする。 3. 挨拶と返事は、はっきりとした声で行う。 4. 常に患者には気を配り、親切で丁寧な対応をする。 5. 分からないことは勝手に判断せずに、指導者に報告し、指示に従う。 6. 実習時は必ず実習帳を持参し、必要な資料を忘れてはならない。		

臨地実習の内容		補綴科	
担当		歯科医師:霜野良介、鈴木荘太、平井博一郎、森啓、大木絵美、高谷達夫、伊能利之、喜多村洋幸 歯科衛生士:笠原由香	
授業の目的(GIO)		・講義で学んだことと臨床とを関連づけ、補綴治療への理解を深める。また、高齢者の口腔健康管理と患者への対応法を身につける。 ・新患・再来新患への医療面接、口腔内診査の介助を行うことにより、歯、歯周、顎口腔領域の疾患に対する知識の習得と、患者対応を学ぶ。	
評価方法		習得すべき全てのケース(見学・介助・実施)の終了、レポート提出、口頭試問にて理解度を評価する。実習に臨む態度、積極性も評価の対象とする。	
項 目		実 習 内 容	行 動 目 標
全部床義歯、部分床義歯、Cr・Brの製作過程		講義内容を参考にレポート提出、口頭試問を行う。	全部床・部分床義歯、Cr・Brの製作過程が説明できる。 また、補綴物の種類、特徴および適応を説明できる。
印象材、セメントの取り扱い		実技実習、説明を行いレポート提出、口頭試問を行う。	それぞれの印象材、セメントの特徴を理解し、適切に扱うことができる。
高齢者への接し方		講義内容を参考にレポート提出	高齢者の身体的特徴や社会的立場を把握し、適切な対応ができる。
義歯の取り扱い 補綴患者への刷掃指導		口頭試問、実技実習を行う。	補綴治療後の術後管理の目的と方法を説明できる。
診療見学・介助		ケース項目の見学・介助を行う。	各処置の目的、術式と使用器具・器材を理解し、円滑な介助ができる。
テンポラリークラウン作製		担当 Dr の指導の下、模型にてテンポラリークラウンを作製する。	指導手順によりテンポラリークラウンを作製することができる。
余剰セメントの除去		Cr・Br の仮着後、余剰セメントの除去を行う。	適切な器具を使い、短時間で除去することができる。
義歯着脱・義歯清掃		義歯着脱、義歯の清掃を行う。	正しい義歯着脱法、義歯清掃法を身につける。
技工見学		技工作業の見学を行う。	診療室での処置と技工操作を結び付け、補綴治療の流れを理解する。
初診 対応	受付補助	健康調査票の説明と受け渡し 血圧測定器の説明と測定補助	健康調査票の内容を理解し患者に分かり易く説明する。 血圧と全身疾患のかかわりを理解する。
	器具取扱い	器具の準備・片づけ	清潔・不潔を理解し正しく準備と片づけを行う。
	患者誘導	チェアーに患者を誘導する	適切な対応でスムーズな誘導を行う。
<注意事項> 1. 身だしなみは清潔にし、患者、スタッフに対しての挨拶等礼儀を大切にすること。 2. 診療の見学、介助に入る際には必ず術者に一言断わること。 3. 診療室では私語を慎むこと。 4. 実習中に診療室外へ出るときはチーフ衛生士に許可を得て、戻ったときには報告すること。 5. 見学ケース、介助ケースはいずれも期日内にレポートを提出し、口頭試問を受けること。 6. ケースの数にとらわれることなく、積極的に実習を行うこと。 7. 初診患者は予約制ではないため混雑する場合がある。速やかに患者対応できるよう、歯科衛生士、担当医の指示に従い敏速に行動すること。			

臨地実習の内容	口腔外科	
担当	歯科医師: 中山洋子、植田章夫、内川恵理、松村奈穂美、谷山貴一、上田敬介 歯科衛生士: 矢島絵美	
授業の目的 (GIO)	口腔外科・歯科麻酔学の講義をもとに、外科手術の際に必要な知識について理解を深め、適切な介助技術を習得する。	
評価方法	口頭試問: ①臨床ケース ②主要外科処置・使用器材 (普通抜歯術、埋伏抜歯術、歯槽骨整形術、歯根端切除術、膿瘍切開排膿術) レポート: ①外科器材 ②小手術 ③救急処置	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
清潔・不潔の概念	清潔域・不潔域 消毒・滅菌 手指消毒法	清潔域と不潔域を理解できる。 消毒と滅菌の違いを理解できる。 適切な手指消毒ができる。
主要外科処置 ・普通抜歯術 ・埋伏抜歯術 ・歯槽骨整形術 ・歯根端切除術 ・膿瘍切開排膿術	各処置の器材準備と介助および見学	処置の目的、適応症・禁忌症、術式を理解し適切な介助ができる。
救急処置	血圧・脈拍測定法 心肺蘇生法 AED 使用法	バイタルサインの確認ができる。 一次救命処置ができる。
精神鎮静法	精神鎮静下の外科的処置の介助	精神鎮静法の適応が理解できる。 鎮静下での外科的処置の介助ができる。
病棟・手術見学	病棟見学 全身麻酔下手術見学	病棟での看護師の役割を理解できる。 全身麻酔の適応と手術法が理解できる。
<注意事項>		

臨地実習の内容	歯科放射線科	
担当	歯科医師:黒岩博子、長内 秀、森こず恵	
授業の目的(GIO)	歯科衛生士に必要な各種画像検査法と正常解剖学について具体的に習得し、さらに放射線の安全な利用について理解する。	
評価方法	実習項目、臨床見学をすべて終了し、実習記録による評価とともに、試問において理解度を評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
1. 診療準備	・診療室の清掃 ・歯科用 X 線撮影装置 (ヘッドレスト、照射スイッチ)の清拭 ・防護エプロンの清拭 ・撮影補助器具の滅菌 ・IP のリパック	診療準備を実施できる。
2. 受付業務	・患者さんへの応対 ・診察カード(または受付票)と案内連絡票の受け取り ・検査依頼票兼照射録の印刷 ・患者さんの誘導	受付業務を実施できる。
3. 口内法エックス線撮影	・ファントムを用いて、口内法 エックス線撮影練習(二等分法)を行う。	口内法エックス線撮影法(二等分法)を習得する。
4. インスタント現像	・インスタント現像を行う。	インスタント現像を習得する。
5. 歯科用自動現像機	・歯科用自動現像機でフィルム現像を行う。	現像の過程とフィルムの構造を理解する。
6. デジタル画像処理	・イメージングプレート(IP)をスキャナーで読み取り、画像化する。	デジタルエックス線撮影システムの種類、原理、特徴を理解する。
7. パノラマエックス線撮影	・パノラマエックス線撮影を体験する。 ・パノラマエックス線写真をトレースする。	パノラマエックス線撮影の特徴と適応、正常解剖学を習得する。
8. 骨密度測定	・骨密度測定を体験する。	骨密度検査を理解する。
9. 超音波断層検査	・超音波断層検査を体験する。	超音波断層検査を理解する。
10. フィルムマウント	・14 枚法デンタルフィルムのマウント練習を行う。	デンタルフィルムマウントを習得する。
11. 撮影見学	・放射線検査の実際を見学する。	撮影法、撮影補助技術について理解する。
12. 放射線防護	・放射線の人体への影響、防護用具の取り扱い、歯科エックス線検査における患者と術者の放射線防護方法を実践する。	放射線の影響と健康について、理解を深め、放射線防護方法を習得し、その重要性を認識する。
<注意事項> 受付業務に際して、身だしなみには注意を払い、笑顔と思いやりをもって対応する。		

臨地実習の内容	地域連携歯科	
担当	歯科医師:朝比奈滉直 歯科衛生士:西澤恵美	
授業の目的(GIO)	スペシャルニーズのある患者の歯科診療に参加することにより、基本的知識および臨床技能を習得し、各障害に対する対応や口腔保健指導の知識を修得する。	
評価方法	1. 主要な障害について所定の症例数を見学、診療補助後、ケース表を提出し試問を受ける。 2. 歯科診療に参加し診療の器材準備及び術式に沿った診療補助が出来ているか評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
スペシャルニーズのある患者との適切なコミュニケーション技能と倫理的態度	適切なコミュニケーション、スペシャルニーズのある患者への配慮、トランスファー、医療人としての倫理的態度	スペシャルニーズのある患者との適切なコミュニケーション技能と倫理的態度を習得する。
行動調整の実際	行動変容技法(診療補助) 笑気吸入鎮静法(診療補助) 静脈内鎮静法(見学) 全身麻酔科集中歯科治療(見学) 身体抑制法(診療補助)	歯科診療に参加し、どのような行動調整法がなされているのか理解する。
障害についての理解	知的障害(診療補助) ダウン症候群(診療補助) 自閉スペクトラム症(診療補助) 脳性麻痺(診療補助) 精神・神経疾患(診療補助) 循環器疾患(診療補助)	歯科診療に参加し、各障害の特性と対応、口腔内の特徴を理解する。
口腔保健指導	ブラッシング指導(実施)	スペシャルニーズのある患者の口腔保健管理上の問題点を把握し、患者に適した口腔保健指導を患者あるいは保護者・介助者に実施する。
感染症患者の実際	HBV、HCV、HIV 患者などの歯科的配慮点(見学)	各感染症を理解し、感染防止対策の方法、消毒・滅菌について理解する。
摂食・嚥下	診査、検査、評価、訓練など一連の流れ(見学)	摂食・嚥下リハビリテーションの臨床を学ぶ。
<注意事項> ・患者のプライバシー保護には十分注意する。 ・臨床実習生の立場をわきまえ、身だしなみ、言動、行動などに気をつける。		

臨地実習の内容	矯正歯科	
担当	歯科医師：川原良美、西村恵子、中根隆 歯科衛生士：阪西あい	
授業の目的（GIO）	歯科矯正学の講義にて習得した知識をもとに実習を行い、不正咬合に対する治療の必要性、矯正患者における保健指導、各種矯正装置や器材・器具について総合的に理解する。	
評価方法	各種実習項目について習得すべき全てのケースの終了、レポート提出、口頭試問により、知識・技能・実習態度を総合的に評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
資料採得	印象練和 口腔内写真撮影	口腔内写真撮影の介助ができる。
介助実習	セメント練和・盛り付け アルジネート練和 ダイレクトボンディング法 器材の受け渡し	目的に応じた適切な稠度で練和できる。 治療の流れや手順を理解し、適切且つ迅速な介助ができる。
保健指導	口腔衛生指導(TBI) 口腔筋機能療法(MFT)	矯正患者における口腔衛生指導について理解し、実施することができる。
器材・器具	口頭試問	矯正治療に使用する器具・器材の名称と用途を理解し説明できる。
各種矯正装置	ケース取得後の記録および口頭試問	各種矯正装置について、名称・用途・使用方法等を理解し説明することができる。
相互実習	口腔内写真撮影	口腔内写真撮影の術者と介助者の実施ができる。
歯列模型実習	アーチワイヤー結紮実習	歯列模型を用いたマルチブラケット装置のアーチワイヤーとエラスティックの着脱、結紮ができる。
習熟度評価	口頭試問習熟度評価	矯正治療について総合的に理解し説明することができる。
<注意事項> 1. 病院内においては、私語や大きな声を慎み、術者や介助者の妨げとならないように機敏な行動を心掛ける。 2. 常に気配りを心掛け患者に対応する。 3. 器具・器材には精密で高価なものが多いため、無駄な使用や勝手な破棄は控える。		

臨地実習の内容	小児歯科	
担当	歯科医師:森山敬太 歯科衛生士:三井美幸	
授業の目的(GIO)	小児歯科臨床実習は、今までに習得した知識を基に、診療補助として必要な小児の成長発育を考慮した予防指導や予防処置、治療ならびに口腔健康管理についての技術を習得する。 また、患児や保護者とのコミュニケーション、患児の対応法について知識、技術、態度を習得する。	
評価方法	臨床講義、見学、相互実習、アシスタントケース、実施ケース、口頭試問および試験ケースにより、知識・技能・態度を総合的に評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
1. 臨床講義 ※臨地実習 オリエンテーション	1 小児の対応法 2. フォーハンドデンティストリー 3. 咬合誘導 4. 予防処置 5. 刷掃指導 6. 食事指導	・インフォームドコンセント、一般的な対応法、行動変容による対応法、特殊な対応法を理解する。 ・フォーハンドデンティストリーの目的と方法を理解する。 ・咬合誘導の目的、装置の種類、適応を理解する。 ・フッ化物塗布法と予防填塞法の目的、術式、術後指導を理解する。 ・乳歯う蝕の原因、特徴および予防法を理解する。 ・小児の歯肉炎の種類と特徴を理解する。 ・食生活とう蝕の関連、間食の意義を理解する。
2. 臨床見学	1. 定期健診 2. 小児の対応法 3. レジン修復(光重合) 4. 乳歯既製金属冠 5. 歯髄処置 6. 外科処置 7. 咬合誘導 8. 刷掃指導 9. 食事指導 10. フッ化物塗布	・診査の項目、方法、記録について理解する。 ・小児の対応法(主に声掛け)を理解する。 ・治療内容を把握する。 ・治療の術式や使用器材を理解する。 ・フォーハンドテクニックを理解する。 ・器材準備および片付け方法を理解する。 ・術後指導の内容および方法を理解する。 ・患児や保護者とのコミュニケーションの必要性、方法を理解する。 ・指導の流れを把握する。
3. 介助ケース	1. 定期健診 2. 小児の対応法 3. レジン修復(光重合) 4. 乳歯既製金属冠 5. 歯髄処置 6. 外科的処置	・口腔内診査結果の記録を行う。 ・TSD法に準じた声掛けを行う。 ・器材準備、点検、片付けを行う。 ・カートリッジ注射器の取り扱いを理解する。 ・フォーハンドデンティストリーによる介助を実施する。 ・治療の流れに沿った器具の受け渡しを行う。
4. 実施ケース	1. 定期健診 2. 刷掃指導 3. 食事指導 4. フッ化物塗布	・診査項目に従って口腔内診査を行う。 ・清掃状態と歯肉の健康状態を観察し把握する。 ・咬合状態の観察をする。 ・小児、保護者に対するブラッシング指導を実施する。 ・適切な清掃用具の選択および指導を実施する。 ・幼若永久歯(第一大臼歯を中心)のプラークコントロールの方法を指導する。 ・フッ化物の取り扱いを理解し、指示に従って塗布を行う。 ・注意事項の説明をする。 ・歯科保健指導記録を記載する。

5. 試験ケース	1. 定期健診 2. 小児の対応法 3. レジン修復(光重合) 4. 乳歯既製金属冠 5. 歯髄処置 6. 外科処置 7. 咬合誘導 8. 刷掃指導 9. 食事指導 10. フッ化物塗布	・乳歯と永久歯の違いを理解する。 ・TSD法に準じ、術者と協調した声掛けを行う。 ・安全の確保を行う。 ・適切に器材準備、点検、片付けを行う。 ・適切かつ安全にカートリッジ注射器の取り扱いをする。 ・適切なフォーハンドデンティストリーによる介助を実施する。 ・治療の流れに沿った適切な器具の受け渡しをする。 ・指示に従った指導を実施する。 ・適切に指導記録を記載する。 ・適切な歯面清掃を実施する。 ・指示に従い適切なフッ化物の取り扱いの下に塗布する。 ・適切な術後指導を行う。
6. 相互実習	1. フッ化物塗布 2. 予防填塞 3. う蝕活動性試験	・術者磨きを実施し、仕上げ磨きの指導に生かす。 ・ラバーダム防湿を実施する。 ・術式および処置の流れを確認しながら実施する。 ・CAT21 Fast、CAT21 パフの検査の目的・使用法を理解する。
7. 口頭試問	1. 定期健診 2. 小児の対応法 3. レジン修復(光重合) 4. 乳歯既製金属冠 5. 歯髄処置 6. 外科処置 7. 咬合誘導 8. 刷掃指導 9. 食事指導 10. フッ化物塗布 11. 予防填塞	[診療補助] ・試験ケース症例で出題されるレポート課題に関する口頭試問を受け、合格する。 [保健指導・予防処置] ・登院前に課題を記入する。 ・登院後口頭試問を受け、合格したら実施ケースおよび試験ケースを行う。
<注意事項>		

臨地実習の内容	デイサービスセンター臨地実習	
担当専任教員	三村 杏奈	
授業の目的(GIO)	通所介護施設における介護サービスを学び、要介護高齢者の身体機能および心身の状態を理解したうえで、口腔機能向上のために必要な方策を考えて、実行する能力を身に付ける。	
評価方法	実習記録の提出状況およびその内容、実習態度および出席状況から総合的に評価する。 実習記録の提出状況およびその内容、出席状況および実習態度から総合的に評価する。	
実施施設	すがのの郷、みどりの郷 いずれかにて行う	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
1. オリエンテーション	1. 施設の概要 2. 実習の目的 3. 実習の内容 4. 注意事項	1. デイサービスセンターの概要および位置づけを説明できる。 2. 高齢者の身体的・精神的特徴を説明できる。 3. 実習の目的・内容を具体的に説明できる。 4. 実習における注意事項を理解できる。
2. 実習の流れ	集合～実習準備 ミーティング 送迎時の介助 健康チェック 入浴前後の介助 お口の体操 昼食配膳・片付け レクリエーション お茶の準備・片付け 清掃 実習記録の作成・提出	1. 一日の目標を立てることができる。 2. 施設における一日の流れを理解できる。 3. 指示内容を理解し、速やかに行動できる。 4. 高齢者とのコミュニケーション手段を工夫できる。 5. 高齢者の特性に配慮しながら必要な介助を判断できる。 6. 安全に身体的介助ができる。 7. 高齢者の小集団を対象に、分かりやすい食前アプローチができる。 8. 利用者個々の能力に応じたレクリエーションを工夫できる。 9. 実習の内容を振り返り課題を明確にできる。 10. 課題の解決策を考察できる。
<注意事項> ・ 利用者のプライバシーに配慮し失礼のない態度で接する。また、守秘義務を厳守する。 ・ 自主的に行動することを目標とするが、不明な点については自己判断せず施設職員の指示を仰ぐ。		

臨地実習の内容	重度心身障害者巡回臨地実習	
担当	歯科医師:松本歯科大学病院 歯科衛生士:松本歯科大学病院 衛生学院教員	
授業の目的(GIO)	障害者歯科学の講義を基に、障害者への対応を学び、障害を考慮した歯科検診の介助と口腔清掃指導法を習得する。	
評価方法	実習記録の提出状況およびその内容、出席状況と実習態度から総合的に評価する。	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
実習の流れ	診査の準備 口腔内診査時のチャーターイング 応急処置時の器材準備・介助 ブラッシング指導 ブラッシングプログラム記入 後片付け 施設見学 反省会	1. 実習の目標を立てることができる。 2. 歯科検診に必要な器具・器材を準備できる。 3. 清潔・不潔に留意して検診の介助ができる。 4. 障害に応じた対応ができる。 5. 口腔内診査結果を正しく記入できる。 6. 応急処置時の介助ができる。 7. 障害者の口腔内状態・ブラッシング状況を把握できる。 8. 障害を考慮した指導法を選択できる。 9. ブラッシングプログラムを正しく記入できる。 10. 口腔ケアにおいて、施設職員と連携する重要性が理解できる。 11. 実習の内容を振り返り、課題を挙げるができる。
<注意事項> ・疑問点等は担当歯科医師・担当歯科衛生士・教員に尋ねること。		

臨地実習の内容	1歳6か月児健康診査実習	
担当専任教員	竹岡亜紀	
授業の目的(GIO)	1歳6か月児健康診査の意義を理解し、関連職種の連携および対象児・保護者への対応を学ぶ。	
評価方法	事前レポート・実習記録の提出状況およびその内容、出席状況、実習態度から総合的に評価する。	
実習施設	塩尻市保健福祉センター	
項 目	実 習 内 容	行 動 目 標
1. 実習の流れ	集合～実習準備 健診見学 実習記録作成 カンファレンス	1. 実習の目標を立てることができる。 2. 健診手順を説明できる。 3. 保健師および歯科衛生士による集団指導の主旨を把握できる。 4. 集団指導での媒体の活用法を説明できる。
2. 健診の流れ	受 付 お 話:保健師・歯科衛生士 問診・発達チェック 歯科診察 計 測 内科診察 相 談 終 了	5. 保健師および歯科衛生士の受診児と保護者への対応について述べることができる。 6. 歯科健診の記録方法を説明できる。 7. 一巡したあとの見学方法を決めることができる。 8. 受診児の年齢に応じた対応ができる。 9. 保護者への配慮ができる。 10. 疑問点等を質問できる。 11. 実習内容を振り返り課題を挙げることができる。
<注意事項> 1. 保護者に了解をとり、受診児とその保護者に同行し健診の流れを体験する。 2. 快く承諾して下さった保護者の方に失礼のないように接する。 3. 質問は健診終了後の保健師および歯科衛生士とのカンファレンスの際に遠慮なく尋ねること。 4. 実習には、目的を持って臨むこと。		

